

## 第六期(通算第三十九期) 中間活動報告会・講演会

REF第六期中間活動報告会が二月二日(土)に福井県織協ビル八階の八〇二号室で開催された。昨年の第五期総会にて行われる予定であった三村氏による講演会が、西日本豪雨の影響もあり中止となっていたため、今回の中間報告会との同時開催とし、交流会を含め約二十五名の参加者が集まった。

第一部の講演会では、酒井氏による挨拶で始まり、REFの賛助会員でもある豊田都市交通研究所の三村氏から「超高齢時代に向けた安全な交通環境づくりに向けて」先進安全技術の効果から」という題目で講演が行われた。免許返納により外出機会を失った高齢者のうつ症状リスクの増加や、自動安全装置(A-DAS)の事故低減効果を示したデータ等、全国的にも課題となっている自乗車を取り巻く交通環境について興味を尽きない内容であった。



酒井理事による挨拶・講演者紹介



三村氏による講演会

小休憩をはさみ、小林氏の司会進行により、中間活動報告会が行われ、加藤哲男理事長のあいさつののち、各分科会の代表者が発表をした。発表後は、菅原氏による総評、総務幹事である田辺氏から会員入退会報告、最後に宮本副理事長から、REF四〇周年記念事業の海外研修の簡単な案内があり、同氏のあいさつによって閉会した。

その後会場を移し、懇親会が開かれた。和やかな雰囲気の中、懇親会は進み、会員相互の交流をさらに深めた。

### 【分科会報告会】

講演会の後に行われた、今回の中間報告会では、全五分科会が報告を行った。活発な質疑や菅原氏による総評等、普段の分科会活動のみでは気づくことができない点について指摘があり、夏の総会に向けて、今後の研究会の活動がさらに進展することが楽しみである。



司会小林氏(右側)加藤理事長による挨拶



【県境分科会】発表橋本氏(右側)質問玉村氏(左側)

### 【県境道路分科会】

発表者…橋本 拓己  
質問者…玉村 美樹

「県境道路の活用方法に関する研究」公共交通の観点から県境を越えるバス路線」

県境道路分科会の今期の活動は、県境道路の活用方法について日常生活の観点から公共交通であるバス路線に着目している。主要都市間の連絡を目的としている高速バスは除外し、県境を越える一般の路線バスを対象となっている。

GIS国土数値情報バスルートとよばれる公開データを利用し、バス路線の抽出を行ったが、現時点で使用しているデータが平成二十三年度に作成されたものであり、すべてのバス路線について現状を把握しきれない課題があった。しかしながら、質疑の中で、近日データが更新されるとの情報があり、今後、最新の情報を活用していく可能性ができた。

今回の報告では現時点で把握できているバス路線の中で紹介があった。福井県の嶺南地域と京都府、滋賀県を連絡する路線があり、小浜駅と近江津駅路線では一日往復で二十六便、鉄道との連絡にも考慮がされている。また、高浜駅と東舞鶴駅との路線では平日十往復、土日は八往復となっており、平日における朝夕の時間が考慮されており、京都から福井県への通勤通学ができる可能性もある。

文献輪読も前期同様行っており、参考図書として「限界集落の真実」を使用していたが、今期より京都大学大学院教授の藤井聡著「クルマを捨ててこそ地方は甦る」の輪読を行っている。

今期も前期に引き続き現地調査を行う予定であったが、道路の選定が難航し実施には至っていない。今後は、現地調査も視野に入れつつ、県境を越えるバス路線の利活用の在り方などについて、研究を進めていく。

【地象分科会】

発表者：窪田 吉倫  
質疑者：森 智生

「福井の地名から学ぶ防災・減災について」

地象分科会では、例年にならない分科会メンバーの一人の地元である鯖江市を調査対象とした。昨年の西日本豪雨や豪雪をはじめ、今後、高い確率で発生する南海トラフ地震などの自然災害に対して、防災・減災を考えていく上では地形を理解することが重要である。この地形を読み解くにあたり、地名は非常に関係が深く、地名によって地域の歴史、さらには将来における災害リスクを把握することができる。

今回の現地調査では、福井鉄道の「水落駅」をスタート地点とし、「まなべの館」を経由地としている。水落地区の地形的な特徴として、はじめに国土地理院の地形図を紹介し、三ノ五メートル程度のきれいな段差を確認することができた。現地調査報告では、巨石を使った石垣や段差を活用した民家等もあり、上手く段差を利用している例もあれば、これがマイナスの影響を及ぼしているとも思える例もみられた。「まなべの館」では古地図の再現模型や、鯖江市内の遺跡分布図等貴重な資料があった。古地図では現在も区画が変わらない場所があり、非常に貴重な場所であると思える。

最終報告にむけて、鯖江市史などによる市街地の成り立ちの確認や地形史の確認を行い、地形と町の成り立ちの関連を意識しながら考察を深めていく予定である。



【地象分科会】

発表：窪田氏（右側）  
質問：森氏（左側）



【交通分科会】

発表：吉村氏（右側）  
質問：藤井氏（左側）

【交通分科会】

発表者：吉村 朋矩  
質疑者：藤井 浩都

「歩行者・自転車を取り巻く環境に関する研究(その3)」

平成二十八年に、安全で快適な自転車利用環境創出ガイドラインの改定が行われ、さらに自転車活用推進法が平成二十九年に施行されている。このような背景の中、交通分科会では、前期に引き続き自転車や歩行空間の利用環境、シェアサイクルの運用方等に関して、現地調査及び資料・文献調査によって探っていく。

今回の報告では、特に無信号横断における自動車の一時停止率が話題の中心となった。JAFの無信号交差点における歩行者横断時の自動車の一時停止率のデータによると、全国平均ですら八・六%と低いが、福井県はさらに低い四・五%とさらに低い結果となっている。

分科会では、福井県の藤島高校の協力を得て、通学時間帯の一時間における、交差点の一時停止状況、ビデオ観測による調査で実施している。調査時において通過した全自動車数のうち、歩行者等の横断時の車両が一七六台であり、このうち一時停止をした車両数は二二台と一割弱であることが明らかとなった。JAFの結果に比べて高い割合ではあるが歩行者が安全に歩ける環境とはいえず、自動車ドライバーへの道路交通法の理解向上等の対策が必要であると指摘した。

今後にはむけて、引き続き文献輪読をすすめ、歩行者・自転車環境創出に関する知識向上に努める。また、JR福井駅周辺における自転車駐輪の実態を把握するための調査も行っており、現在整理中とのことであるので、これも含めた発表がされることを期待したいところである。

【水分科会】

発表者：嶋田 良和  
質疑者：西谷 光史

「丹南地域の豊かな湧き水」

福井県内においては、奥越地域の印象が強い湧き水であるが、環境省のまとめによると越前市には大野・勝山市とほぼ同数の湧き水が存在している。そこで、越前市を中心とした丹南地域に焦点をあて、その地域の湧き水の歴史と今の調査を行っている。アクセスの容易性や地域の偏りを勘案しつつ左記示す七箇所を選定している。

- ① 石神の湧水（越前市大虫町）
- ② 解雷ヶ清水（越前市千合谷町）
- ③ お清水不動尊の水（越前市吾妻町）
- ④ 皇子が池の水（越前市粟田部町）
- ⑤ 瓜割清水（越前市赤谷町）
- ⑥ 治佐川井戸（越前市上真柄町）
- ⑦ 鶯清水（南越前町西大道）

これらの湧き水調査の中で、各箇所の歴史と現在に至るまで地域住民に大切に使われていること、さらに湧き水は地域住民の生活や文化、生態系とも深い関わりを持つ重要な資源であることを確認できた。このような水資源を後世に残していくために県内外で取り組まれている保全・復活活動に着目し、今後調査を進めていく予定である。



【水分科会】

発表：嶋田氏（右側）  
質問：西谷氏（左側）



【交通安全分科会】

発表：三村氏（右側）  
質問：梅田氏（左側）

【交通安全分科会】

発表者…三村泰広  
質疑者…梅田祐一

「自動運転社会に向けた課題

― 実証実験試料の分析を通じて ―

昨年度から、国内の自動運転社会を展望し、自動運転技術の現状や各省庁の取り組みなどについて整理を行っており、今年度では、主として実証実験結果報告の状況を把握し、道路交通システムにおける課題等を検討していく。

官民を挙げた実証実験が各地で行われており、その中でも、国土交通省、経産省が推進する「道の駅等を拠点とした自動運転サービス」、「ラストマイル自動運転」、そして自治体、民間または大学が取り組む主な実験について、実証実験資料の分析を通じて現段階の成果を報告した。

一つ目の「道の駅を拠点とした自動運転サービス」では富山県の道の駅「たいら」や道の駅「南アルプスむら長谷」などが紹介された。走行空間の課題では、低速で走行するため、後続車の追い越しや、交差点等でのマニュアル操作の介入等がある。また、施設が多いエリアでの路上駐車を避けるために、地域住民の協力等も重要な課題としている。

二つ目の、「ラストマイル自動運転」は、基幹交通システムと自宅や目的地との間、地域内といった短中距離を補完する自動走行の一種で、導入・活用の期待が高い。過疎地モデルとして永平寺での実証実験もこれに含まれており、遠隔型自動運転の基準緩和認定と道路使用許可を国内で初めて取得し、世界初の実証とのこと、福井県人としては誇らしい気分である。

三つ目の、自治体、民間、大学の取り組みは、自動運転によるタクシースターの行動での利用者への営業走行に関しては世界初の試みであり、都内における人手不足や高齢ドライバーの事故リスクの低減等期待できる。都内でも深刻だが、地方でもこの現状は否めず、これら大都市の取り組みをどう地方に落とし込むかも、今後の課題ではないかと考える。

今後の活動としては、SIP事業や国家戦略特区事業における自動運転実証実験の結果について整理していく予定である。

【市民活動パネル展への出展】

昨年十一月二十二日から十二月十二日にかけて、「みんなの活動パネル展2018」に出展された。展示日時・場所の詳細は左記の通り。

・十一月二十一日～二十八日  
ハピリン二階「しあわせ広場」

・十一月二十九日～十二月十二日  
総合ボランティアセンター交流広場

出典したパネル



【第六回NPO・REF談話会】

昨年十月二十日～二十一日の日程で実施された、国内研修の報告会が一月二十四日に行われた。REFとしての国内研修は五年ぶりであり、静岡市・三島市の都市開発、遺跡発掘、湧水流域環境等の現地調査を行い、研修参加者によって説明がされた。

なお、当日配布された調査報告書のファイルはREFのホームページにアップされており、本年の七月に発行される機関誌にも掲載する予定である。

【創立四〇周年記念事業について・海外研修】

中間報告会の閉会の挨拶において、宮本副理事長より、REFの創立四〇周年記念として、海外研修の案内がされた。昨年の総会において海外研修先候補として欧州の提案があり、現在はイギリスへの研修を予定しており、現地の都市計画や交通まちづくり等を中心に視察する。時期は九月～十月を予定しており、確定次第案内されるので、ぜひ、多くの方に参加していただきたい。

★入退会のお知らせ★（敬称略）

《入会》

正会員 なし  
賛助会員 竹内 伝史

《退会》

正会員 安本 倫章  
賛助会員 佐々木 宏  
塚本 勝典  
石橋 孝則（学生会員）

平成三十一年三月二日時点

|     | H31.3 | 備考           |
|-----|-------|--------------|
| 正会員 | 71    | 退会-1         |
| 助会員 | 33    | 入会+1<br>退会-3 |
| 計   | 104   |              |

【会費の納入について】

会費の納入をお願いします。

■年会費

正会員 … 12,000円  
賛助会員 … 3,000円

■会費納入先

《振込みの場合》  
ゆうちょ銀行  
振替口座 730・3・20396  
福井地域環境研究会

※機関紙巻末の振込用紙をご利用ください。

《直接支払う場合》

総会、中間報告会、談話会等開催時、または、左記、財務幹事まで直接お支払いください。

【財務幹事】

〒910-8580  
福井県福井市大手3丁目17-1  
福井県土木部河川課

清水 健

Tel 0776・20・0481(内線3393)

Mail t-shimizu-j3@pref.fukui.lg.jp